

一般社団法人コミュニティシネマセンター 2024年度(令和6年度)事業報告

1. 受託事業

[1] 映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ2024

(令和6年度文化芸術振興費補助金 舞台芸術等総合支援事業(芸術家等人材育成))

継続的に実施している人材育成事業。2024年度は、全国コミュニティシネマ会議、上映者育成のための講座・ワークショップ、コミュニティシネマ連携企画、Fシネマ・プロジェクトという4つのプログラムを実施した。

(1) 全国コミュニティシネマ会議2024(上映者育成のための講座・ワークショップ)

2024年9月19～20日 会場:川崎市アートセンター(神奈川県川崎市) ほか

参加者:317人(出演者・スタッフ含)

R6年度の全国コミュニティシネマ会議は、神奈川県川崎市で開催した。

-9月19日[金]

“学びの場”としての映画館Ⅰ：コミュニティシネマの映画鑑賞教育プログラム

映画教育の歴史があるフランスから講師を招聘し、フランスでの映画教育の仕組みや事例についての講演を聞いた。また、日本からは、国内における映画教育の取り組みを紹介した。

講師：ナデージュ・ルレ [フランス映画教育プラットフォーム <L'Archipel des Lucioles>]

登壇：土田環 [早稲田大学] /村上朗子 [川崎市アートセンター]

“学びの場”としての映画館Ⅱ：映画館が「クリエイター」を育成する

映画館やコミュニティシネマ等の上映の場が幅広い意味でのクリエイターの育成に重要な役割を果たす場であることを確認し、上映・製作・配給・保存・配信・行政それぞれの専門家と、コミュニティシネマの重要性と可能性、これを支援することの重要性を話し合った。

登壇者：佐々木伸一 [全興連会長/佐々木興業株式会社社長] /志尾睦子 [コミュニティシネマセンター代表理事/たかさきコミュニティシネマ代表] /岨手由貴子 [映画監督/action4cinema] /林健太郎 [U-NEXT映画部部長] /青木俊介 [経済産業省文化創造産業課総括係長] /田村順也 [文化庁参事官(芸術文化担当)付芸術文化補佐官]

司会：とちぎあきら[コミュニティシネマセンター理事/フィルム・アーキビスト]

プレゼンテーションマラソン2024 川崎市周辺を中心とする上映団体の報告を聞いた。

-9月20日[金] テーマ別に3つの分科会を行った。

①「アートハウス・カルチャーの応答可能性(レスポンスビリティ)」参加者：85人

製作・配給・上映の現場における性加害やハラスメント、労働搾取など、提起される様々な問題に対して何ができるのか、いかにして映画の自律性を保持するのかについて、活動報告と対話を行った。

登壇者：山崎紀子(シネ・ヌーヴォ) /山下宏洋(シアター・イメージフォーラム) /渡辺祐一(東風)

ゲスト：小森はるか(映像作家) /月永理絵(ライター) /北條誠人(ユーロスベース)

②「新しいコミュニティシネマのつくりかた」参加者：55人

神奈川県藤沢市鵠沼海岸にある「シネコヤ」を事例として、新しい上映の場=コミュニティシネマのつくりかたを考える。小規模な上映会から本格的な映画館(ミニシアター)まで、上映の場=コミュニティシネマをつくることに関心のある人を主たる対象とするセッション。

登壇者：竹中翔子(シネコヤ) /志尾睦子(コミュニティシネマセンター/NPO法人たかさきコミュニティシネマ)

③「『こどもと映画』プログラム/鑑賞ワークショップの方法論」参加者：63人

鑑賞教育プログラムに取り組む人たちの情報共有と交流、ブラッシュアップのための分科会。具体的な鑑賞教育プログラムの事例報告を聴き、参加者自身がプログラムの立て方、作品の魅力を伝えるポイントを考えた。

登壇者：土田環(早稲田大学) /ナデージュ・ルレ/金敬淑(通訳) /村上朗子(川崎市アートセンター) /阿部久瑠美(鎌倉市川喜多映画記念館)

(2) コミュニティシネマ連携企画の推進

①「こども（若年層）と映画」プログラム

「こどもと映画プログラム」では、若年層（小中高生～大学生を含む）を対象とする上映会を定期的に行う映画館・コミュニティシネマの増加を促すため、以下の事業を実施した。

- 「こどもと映画プログラム」ネットワークの構築

子ども向け上映会をより魅力的なものにするための方法（子ども向けの解説、映写室見学、簡単なワークショップ等々）や情報、ノウハウを共有し、新しいプログラムをつくるためのミーティングを定期的に行い、作品資料、鑑賞ノートの作成などを共同で行う。

- 夏休みの映画館（子ども向け上映会）の企画立案と実践

夏休みに子ども向け上映を行う上映団体の鑑賞教育プログラム担当者が共同で上映作品や関連イベントについてディスカッションを行い、上映会「夏休みの映画館」を全国9会場で開催した。

上映作品：

セロ弾きのゴーシュ/ルパン三世カリオストロの城/山村浩二作品集/ロシュフォールの恋人たち /はちどり/音のない世界で/ぼくの好きな先生/すべての些細な事柄
サイレント映画 活弁・演奏付上映

上映会場：

シネマテークたかさき（群馬）、東京都写真美術館、シネマ・ジャック&ベティ（横浜）、シネ・ヌーヴォ（大阪）、元町映画館（神戸）、福岡市総合図書館、Denkikan（熊本）、ガーデンズシネマ（鹿児島）、松本シネマセレクト（長野）

上映会参加者：のべ1,978人（2023年は約1000人）大学生以下25%

② 若手監督作品上映推進プロジェクト

若いつくり手（監督や製作者、出演者）によるインディペンデント映画の上映プログラムの企画・実践を通し、地域におけるインディペンデント映画の上映の機会を増やし、作り手と観客、上映者の育成をはかるプロジェクト。

実施日 | 場所 | 上映作品 | ゲスト | 上映会参加者数：

- ・2024年6月1日 | 高田世界館 | 『フジヤマ・コットン』 | 青柳拓（監督） | 8名
- ・2024年6月29日 | シネ・ヌーヴォ | 『Oasis』 | 大川景子（監督） | 60名
- ・2024年8月24日 | シネ・ヌーヴォ | 『左手に気をつけろ』『だれかが歌ってる』 | 井口奈己（監督）増原譲子（プロデューサー） | 44名
- ・2024年9月13日 | 松本シネマセレクト | 『左手に気をつけろ』『だれかが歌ってる』 | 井口奈己、増原譲子 | 28名
- ・2025年1月18日～19日 | シネマポスト | 『ピアニストを待ちながら』『のんきな姉さん』 | 七里圭（監督） | 52名

上映会参加者合計：192名

(3) Fシネマ・プロジェクト

デジタル化が進行する中でも、映画のオリジナルの形態であるフィルムでの上映環境を保持しつづけるためのプロジェクト。R6年度は、ウェブサイト「Fシネマップ」を活用した情報提供・ネットワークづくり、Fシネマの魅力を広く伝える上映会を実施。

- Fシネマのウェブサイト「Fシネマップ」の運営

フィルム上映に関する情報を提供するFシネマのポータルサイト「Fシネマップ」fcinemap.comの運営。

- フィルム上映会の実践

映写技師の育成と、フィルム文化の魅力と重要性を伝えるため、全国コミュニティシネマ会議に合わせてフィルム上映会を開催した。

上映プログラム：

『近頃なぜかチャールストン』（1981/岡本喜八）ゲスト：利重剛（俳優）前田伸一郎（喜八プロダクション）

『エイン』(2006/モンティンダン) ゲスト:モンティンダン(監督) 天願大介(監督/日本映画大学学長)

上映会来場者数:約200人

[2] 「映画上映活動年鑑2024」の作成

(日本芸術文化振興会 令和6年度「文化芸術の動向把握に向けた基礎資料収集事業」)

映画の上映は、映画産業・コンテンツ産業の一部として捉えると同時に、文化事業、教育事業、公共的な事業として捉えることが重要である。この年鑑では、幅広い視点から上映活動をとらえ、「映画館での上映(興行)」(及び配給)に関する既存のデータを活用しながら、これに映画祭やシネマテークでの上映など公共的な上映活動に関するデータを加え、我が国における映画上映の現状を提示し、分析する。映画館や公開作品については独自に詳細なデータを収集、巻末には、47都道府県別に全映画館と公共の上映活動に関するリストを掲載する。上映に関するデータを多面的に収集・分析することにより、我が国における映画上映のリアルな状況を提示し、特に文化事業としての側面から、その課題を提示し、上映振興策立案のための基礎資料とされることを目指す。

「映画上映活動年鑑2024」 内容

I 映画館での上映

(1) 概況

スクリーン数の推移(1993～2024) 観客数の推移(2015～2024)

種類別にみる映画館数・スクリーン数の変化(2005～2024)

地方別にみる種類別映画館数・スクリーン数の変化(2015/2024)

全国映画館地図(種類別)(2005/2024)

(2) 公開本数・公開作品

公開本数の推移(2015～2024) 興行収入の推移(2015～2024)

1作品あたりの観客数(2015～2024)

公開作品の上映館数[公開規模]

2024年に映画館で公開された映画の分類 ※公開作品及び特集上映リスト(基礎資料)(約1500件)

2024年興行収入10億円以上作品[日本映画][外国映画]

興行収入10億円以上の映画/興行収入10億円未満の映画

(3) 諸外国との比較 北米・イギリス・フランス・韓国等との比較

[観客数][年間鑑賞本数][スクリーン数/館数][1スクリーン当たりの人口][1スクリーン当たりの観客数]

[入場料金・興行収入][シネマ・コンプレックスの割合 スクリーン数/映画館数][公開本数]

(4) 都道府県別概況

都道府県別概況(人口/映画館数/スクリーン数/年間観客数/1スクリーン当たり人口)

1スクリーン当り観客数/一人当たり年間鑑賞回数)

都道府県別スクリーン数の推移(2015～2024)

都道府県別にみる種類別映画館数・スクリーン数の変化

(5) 全国映画館リスト 約600館(3700スクリーン)

II 公共上映

(1) 映画祭 全国映画祭リスト(約200件)

(2) 公共の映画専門施設(アーカイブ、シネマテーク)及び映画資料館リスト(63件)

(3) 映画館以外で行われる上映活動(主要な自主上映)一覧(約380件)

III 特別調査

「映画館の現状 詳細調査～映画館支援プログラムの可能性を考える」

全国様々な地域（大都市/中都市/小都市）にある4つの映画館・コミュニティシネマ（シネマテークたかさき/横浜シネマリン/ユーロスペース/みやこ映画生協）を選定し、1年間の上映活動の詳細なレポートを作成した。
また、調査結果を提示・分析し、課題を考えるとともに具体的な上映支援策を提示した。
全国コミュニティシネマ会議採録

IV 資料

（1）都道府県別（映画館/公共施設・シネマテーク/映画祭）詳細

各都道府県の全映画館リスト（約600館/3700スクリーン） 2015/2024

各都道府県の映画祭/シネマテーク・映画関連資料館/映画館以外で行われる上映活動（主要な自主上映）

地域別映画地図

（2）上映に関わる用語集

2. 自主事業

[1] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) ジョージア映画祭2024

ジョージア映画祭2024では、名匠エルダル・シェンゲラヤ監督、ラナ・ゴゴベリゼ監督の作品を中心に、ジョージア映画史上に輝く名作を一挙上映。コミュニティシネマセンターでは、東京（ユーロスペース）での開催後、全国8会場に巡回した。

主催：ジョージア映画祭実行委員会 企画：はらだたけひで

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター

- ・2024年10月12日～25日 ナゴヤキネマ・ノイ 17本 来場者：324人
- ・2024年11月7日 牛久エスカードホール 1本 来場者：294人
- ・2024年12月7日～27日 横浜シネマリン 24本 来場者：753人
- ・2025年2月1日～28日 シネ・ヌーヴォ 19本 来場者：1171人
- ・2025年2月14日～3月20日 出町座 21本 来場者：617人
- ・2025年2月15日～3月16日 広島市映像文化ライブラリー 11本 来場者：935人
- ・2025年3月16日～21日 シアターキノ（札幌）6本 来場者：193人
- ・2025年3月21日～25日 高崎映画祭 5本 来場者：

来場者数：合計 約4400人

(2) フレデリック・ワイズマンのすべて-フレデリック・ワイズマンの足跡1967-2023

2024年12月～2025年3月、4ヶ月をかけて、コミュニティシネマセンターが保有するフレデリック・ワイズマン監督作品、日本国内で上映可能なすべての作品44本を上映する特集「フレデリック・ワイズマンのすべて」を開催した。

共催：アテネ・フランセ文化センター

日程：2024年12月6日～2025年3月29日

上映本数：44本 上映日数：53日 上映回数：107回

観客数：5131人 1回平均：48人

また、配給会社「ムヴィオラ」によるワイズマン特集が全国で行われ、コミュニティシネマセンターからも『チチカット・フォーリーズ』『大学-At Berkeley』等を提供した。

上映会場：イメージフォーラム、ナゴヤキネマ・ノイ、せんだいメディアテークほか仙台市内/新潟シネ・ウインド/京都シネマ/キネマ旬報シアター/横浜シネマリン/シネ・ヌーヴォ/シネマ203
その他、立教大学、多摩美術大学芸術学科等でもワイズマン監督作品の上映が行われた。

(3) 映画批評月間《フランス映画の現在》

アンスティチュフランセ（日仏学院）がフランスの最新作や隠れた名作を紹介する特集「映画批評月間～フランス映画の現在をめぐって」。2024年度は、これまでのプログラムで上映された作品を見直し、新しい作品と併せた特集プログラムを組み、横浜、名古屋で上映した。

- ・2023年6月29日～7月12日 横浜シネマ・ジャック&ベティ 来場者数：252人
- ・2023年9月28日～10月4日 ナゴヤキネマ・ノイ 来場者数：88人

来場者数：合計340人

(4) 新しい企画の策定

日本未公開のすぐれた作品の小規模な特集プログラムをコミュニティシネマセンターの会員館で共同で上映する新しい企画「コミュニティシネマ・フェスティバル」の企画を立案。

[2] こどもと映画プログラム

(1) 「こども映画館～スクリーンでみる日本アニメーション！」 国立映画アーカイブ共催事業

2024年度は以下の6会場で実施した。

- ・ 2024年4月29日 | 川崎市アートセンター | 『ゼロ弾きのゴーシュ』(1972年/高畑勲) 100人
 - ・ 2024年7月13-28日 | 前橋シネマハウス | 『パンダコパンダ』『パンダコパンダ雨降りサーカス』 155人
 - ・ 2024年8月2日 | 鎌倉市川喜多映画記念館 | 『ゼロ弾きのゴーシュ』 99名
 - ・ 2024年8月 8-9日 | 川崎市アートセンター | 山村浩二作品集) 42名
 - ・ 2024年8月11日 | パフィオ宇和島ホール | 『パンダコパンダ』 138名
 - ・ 2024年11月2日 | 邑の映画会(群馬県邑楽町) | 『ゼロ弾きのゴーシュ』 375名
- 合計: 6会場 上映会参加者…約900名

(2) 映画教育プログラム(こどもと映画プログラム)

学校(クラス単位)向け上映プログラムの準備を行った。

[3]「SAVE the CINEMA!」事業

(1) コミュニティシネマへの公的な支援システムの実現に向けた活動

コミュニティシネマ(ミニシアター、シネマテーク、自主上映等)の活動に対する支援を実現するための映画振興を担う組織や支援のための組織、法律、制度等の確立を目指して、他団体と連携を図り、必要な活動を行った。

- ・ Action4cinemaや全興連等と連携し、デジタルシネマ機の買換えに対する支援を得るため、経産省と交渉、その経過を随時発信。2025年度に中小企業庁「中小企業省力化投資補助金」を活用して支援することが決定した。
- ・ 上映振興策に関するオンラインミーティングは現在中断している。

(2) コミュニティシネマの活動情報ポータルサイト「アートハウス・プレス」の運営

日々全国各地で展開される多様な上映関連イベントや、映画祭、特集上映など特別な映画上映の情報を、網羅的に紹介するサイト「Arthouse Press(アートハウス・プレス) 芸術電影館通信」を運営。

アートハウス・プレス「Articles & Reports」2024年度の記事

- ・ 2024年4月25日「ディスカッション: 再生する映画館-コミュニティシネマはみんなのもの」採録
 - ・ 2024年5月10日/29日/6月5日
映画上映活動年鑑2023 | 映画館での上映より概況/公開本数・公開作品/諸外国との比較
 - ・ 2024年6月19日
映画上映活動年鑑2023 日本における映画振興策の展開-『これからの日本映画の振興について』以降の20年
 - ・ 2024年8月29日/10月9日
韓国と日本のアートハウス(ミニシアター)の交流(1)(2) 小林良夫/元横浜シネマジャック&ベティ)
 - ・ 2025年1月23日
「ディスカッション“学びの場”としての映画館II: 映画館が「クリエイター」を育成する」採録
- 2024年度「Articles & Reports」アクセス件数: 26,546 (2023年度8,274、2022年度5418)

(3) コミュニティシネマセンター会員制度の充実、見直しなど

会員の増加をはかるとともに、新しい会員制度(賛助会員の拡大、ライト会員等々)を検討した。

・ ウェブサイトのリニューアル、会員制度の充実、見直しなど

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を実施した。

・ ミニシアター(コミュニティシネマ)・ネットワーク会員相互割引サービスの再検討

コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引制度⇒各館の料金改定を反映、より使いやすいサービスに改編することを検討。

(4) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など。

現在、コミュニティシネマセンターが所蔵する作品の貸出を行った。